宇田川
準一譯

小學讀本

一

特34
980

東京圖書館

大日本教育會書籍館
二
六函
二
架
二
四號
四
册
函
架
號

宇田川準一 譯
小笠原東陽 校

小學讀本

卷二

文學社刊行

小學讀本卷之二

宇田川準一 譯
小笠原東陽 校

第三課

第一

女兒は、文字を讀み得るや、○彼は、書物を讀み得るや、○然り、彼は、或る書物を讀むことを得、○汝は、彼の、書物を

宇田川準一 譯
小笠原東陽 校

小學讀本

巻二

文學社藏版章

文學社刊行

小學讀本巻之二

宇田川準一 譯
小笠原東陽 校

第三課

第一

女兒は、文字を讀み得るや、○彼は、書物を讀み得るや、○然り、彼は、或る書物を讀むことを得、○汝は、彼の、書物を

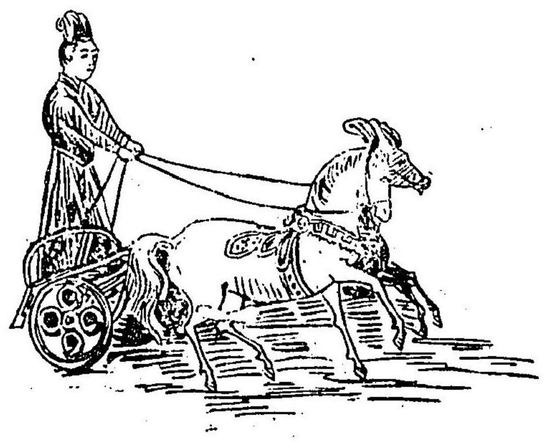
看る狀を、見るや、○吾は、今、これを、見るなり、

第二

これハ、老人なり、○彼の頭は、禿て、髭は白し、○彼は、机の前ゝ坐りて、手に、筆を持てり、○彼ハ、甚だ善き人なり、

第三

此二匹の馬は、今、走れりや、○汝は、彼馬の、速く走るを、見るや、○彼馬は、速く、走らんとするや、○彼馬を、引き止めんとする、人を見よ、○此人は、綱を、強く、引きて、彼馬を、甚だ速く、走らしめざるべし、



第四

この憐むべき老人を、助けよ、○彼を抱き上げて、杖ふ倚らしめよ、○彼をして、轉び倒れしむべからざる、○此の如き老人よは、萬事親切を盡さべし、○人は、皆、老年に及へば、自由に、歩行すること能はざれば

なり、

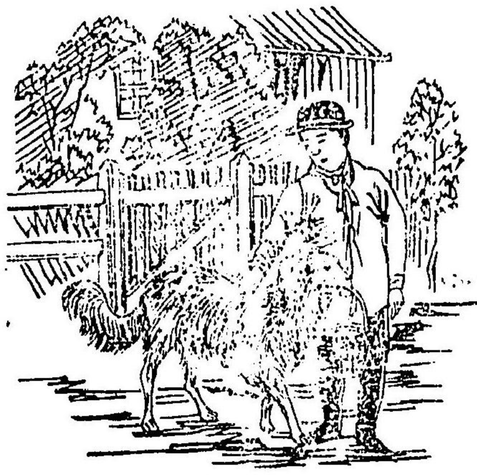
第五

汝は、この小兒を、見るや、○汝は、彼の顔を、見得るや、○汝は、彼の頭髮の、頸の所に、長く垂るゝを、見たりや、○これは、善き小兒なるぬ、我は、その生長して、善良の人と成ること

を望むなり、

第六

これハ、犬を、飼ひ畜へる、童子あり、○この犬は、彼を、噛ミ傷くることあり、○汝は、彼の、犬を伴ひ行くを、見たりや、○これハ、善き犬なり、○善き犬は、汝を噛まざるべし、



第七

汝は、此積荷に乘りたる我を、見得るや、○我は、積荷に乘りて、居れり、○此積荷ハ乾草なりや、○否、乾草にあらず、○我は、これハ乘りて、小屋の所に至るべし、○我は、轉げ落

ちざる様ゑ心を用ひて、この上に居らさるへからず、○汝馬速く歩まずして、徐ゑ行くべし、

第八

それハ何なりや、○これは鳥の巣ぷり、○汝ハ、その中ゑ、何のいる歳見るや、○我ハ、四ッの卵を見たり、○吾ぷ其卵を見せよ、○其卵は美しきや、○其巣は軟にして、温ぷりや、○我等ハ、其卵を取りて、可ぷりや、○否、我等は、これを取るべ、からぢ、鳥は、卵を取らるゝことを、好まざればふり、○若し、これを取らて、其上ゑ坐り、之を暖めて、終ゑ、雛を孵

もものなり、

第九

この少年ハ、休まぞして、終日、歩むこと能はじ、○彼ハ、長く歩きたるゆゑ、今、岩よ腰を掛けて、憩へるなり、○然れども、此處ハ、長く留まるべからじ、彼の家ハ、此處

より遠く隔り、且つ日暮ハ、ふりされば、なり、○汝は、少年の憩へる、岩の側らに在る、池を見たりや、○この池よは、數多の魚、游ぎ居れり、然れども、この少年ハ、これを漁もる爲めに、留まること、能ハざるなり、

第十

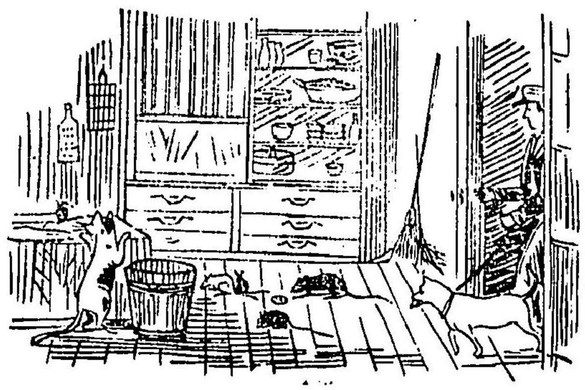
この女子ハ、左の手ハ、何を持てりや、○

汝は、その名を知れりや、○それハ、鏡ふり、○彼ハ、何故に、それを瞰むるや、○彼ハ、頭よ、何を着ける や、○彼も、無益の飾を好めりや、○この女子も、手に箱を持てり、○この箱は、何よて、造れりや、○この箱の、中に在るハ、何なるや、○彼ハ、頭よ、何を冠れりや、○彼の、手よ、持ちたるも、この頭巾の、箱なりや、○否、彼ハ、この箱の中に、新しき頭巾を入れ、より、○彼も、今、新しき頭巾を買ひて、家よ、持ち歸りたるなり、

第十一

爰に四匹の鼠と、一人の童

子と、一匹の犬と、一匹の猫とあり、○汝ハ、鼷と、通常の鼠との、異なる所を、吾に、示すことを、得るや、○鼷ハ、甚ざ小なれ



ども、通常の鼠は、之より大ふして、長き尾あり、○四匹の鼷ハ、今、何を爲せりや、○三匹は、床の上ふ居り、一匹は、箱ふ上りて、遊へり、○猫ハ、箱ふ上りたる鼷を、捕へんと思ひ、又、大なる鼠は、穴ふ入らんとせり、○汝を、鼠の穴を、見得るや、○鼠は、此穴の中ふ、巣を造りて、住めりや、○此穴の中は、暗きや、○甚ざ暗し、然れども、鼠は、暗き所ふ於て、能く、物を見ることを、得るなり、

第十二

汝ハこの牛の、荷車を牽くを、見さりや、

○吾ハこれを見さり、○此人ハ、何故ふ、一匹の牛をして、車を牽かしむるや、○彼は、何故ふ、二匹の牛に、車を牽かしめざるや、○此人ハ、貧くして、唯一匹の牛をのみ持てバなり、○牛は、元

來、力あるものなれば、一匹よりても、重き荷物を、牽くことを、得るなり、○この牛の、頸ふ、掛けさるものは、何なりや、○それハ、軛(クビキ)なり、○此人の、鞭を、持てるハ、何の爲めなりや、○牛の、歩まざるとき、これを、撻ちて、行かしむる爲めなり、

第十三

汝は、左ふ立ちたる老人を、如何ふる人

と思ふや、○善き人ありと思ふや、惡き人ありと思ふや、○吾ハ、彼の顔の、柔和なるに由りて、必ず、善き人なることを、知れり、○此老人も、二人に向ひて、如何なること、語るとや、○彼ハ、二人に向ひて、人の幸福を得るは、皆、品行を正くして、職業を勉强を

るに、因ることの道理を、話せるなり、爰ま、又、二人あり、○この二人は、前の老

人と、異なりて、善き人ま、あらざるべし、何とかれバ、其顔色、甚ざ惡しけれバなり、○汝ち、心を用ゐて、此の如き人を避け、決して相交はるべからず、

第十四

汝、人形、坐れ、○汝の手を、兩方ゑ伸ばし、足を、前ゑ伸だして、動かゝべからず、○若し、動くときハ、汝の姿を、畫くこと能ハず、○吾は、今、汝の姿を、寫し取りたり、○汝は、次ゑ、兩腕を下げて、手を前垂の上ゑ、置くべし、○吾

は、再び、其姿を、寫し取るなり、○畫き終るときハ、手足を、自由に動かすことを、得べし、

第十五

汝ハ、歩みて、此處ゑ來ることを、得るや、○汝は、行かんと思ヘバ、吾の手ゑ頼りて、徐ゑ歩むべし、○次第ゑ、歩

み馴まて、倒れざるに至れバ、走り行くことを、得るなり、○汝は、未ゞ、速く歩むこと、能ハざるゆゑ、躓き倒れて、傷を受けざる様よ、心を用ふべし、○決して、吾の手を離れて、遠く行くべからゞ、

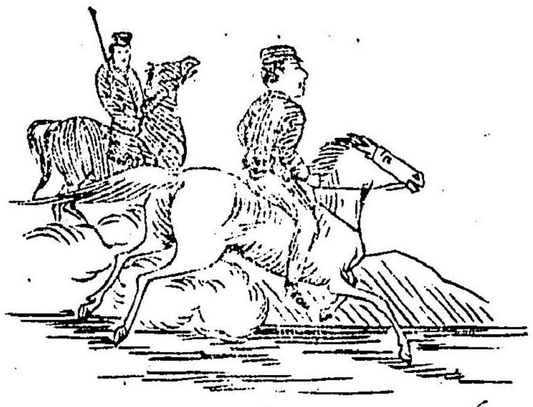
第十六

爰よ、不具なる三人の少年あり、○車よ乘りたる少年は、物を見、又、物を聞くことを、得れども、膝行よして、立ちて歩むこと、能たゞ、○車を挽ける少年は、物を見、又、歩むことを、得れとも、聾にして、物を聞くこと、能はず、○車を推せる少年ハ、物を聞き、又、歩むことを得れども、盲ふして、物を見る

こと、能はず、○然れども、左ふ立ちたる女兒と、物を見、物を聞き、又、歩むことを得て、更ふ、不自由なることなし、○凡そ、人と交はるの際、不具のものに、逢ふときハ、務めて、親切を、盡さべきものなり、決して、之を、指し笑ふべからず、

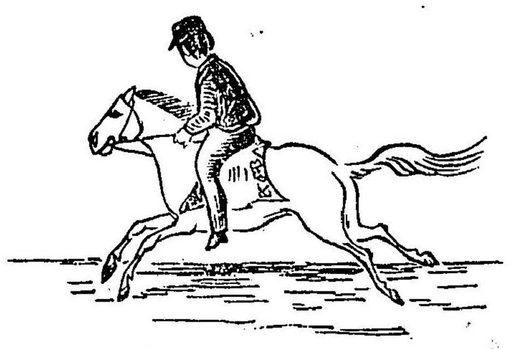
第十七

爰に、馬ふ乘れる二人あり○其一人は、

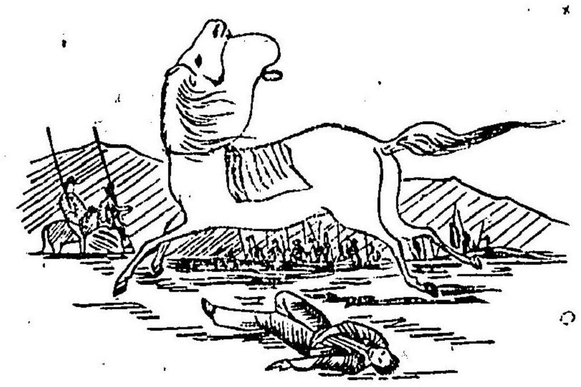


砂を蹴て、馬を走らせ、他の一人と、馬を駐めて、瞰め居れり、○彼ハ、何故ふ、馬を走らせざるや、○一人の馬を走らせる我見んが爲めなり、

この馬ふ乘りて、走れるハ、



前の一人なり、○其走ること、甚ぐ速けれども、彼ハ、恐れざるなり、○汝は、彼の、速く走れるは、何の爲めぞを、知れりや、○吾ハ、これを知らざるなり、



これも亦、前の人よりて、今、馬より落ちたる所なり、○彼ハ、傷を受けさりや、○彼ハ、全く死したりや、○否、死しさるにて、非ざれども、一時氣絶したるなり、

第四課

第一

それハ、新しき書物ぞりや、○これハ、新しき美麗ぞる、書物なり、○その書物は、吾ゝ、讀むことを、得べきや、○汝ハ、此書

物を、讀ミ了れバ、その中
よ、記載したることを、吾
に語るを、得べし、○凡て、
書物を持つときハ、汚し、
或ハ、破らざる樣ふ、心を
用ひて、扱ふべし、

第二

我等は、昨日造りたる、小舟を持ち、河濱

に至りて、遊ぶんと思ふ、○河濱よ行き
ても、決して、河の中央ふ至ることなか
れ、○汝の衣服は、濕ひさ
り、速く、岸よ上りて、乾か
すべし、○吾の立つ所ハ、
淺くして、衣服の、濕れる
ことふく、又、沈み溺れる、
患なし、○吾ハ、今、この小

舟を浮ふる故ゝ、其疾く走るを見るべし、

第三

此童子は、新しき紙鳶を、持てり、○其糸を持ちて、彼の走るを、見よ、○彼ハ、高く、紙鳶を、飛ばしることを得、○紙鳶の颺るを見よ、○

紙鳶ハ、空よ、高く颺りたり、○此時、よく心を用ひざれバ、其糸の、樹に繫ることあるべし、

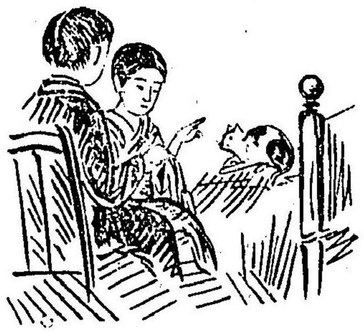
第四

此童子を、見よ、○彼ハ、新しき帽子を、持てり、○彼の、舊き帽子ハ、損じたる故に、新しき帽子を、買ふことを、樂めり、○新しき帽子を、買ひ得されバ、損し、又ハ、濕

さゞ〻る様よ、能く、心を用ふべし、○爰に、又、一人の童子あり、○彼ハ、其體高くして、長き上衣を、着さり、○此童子も、亦、新しき帽子を、買たんと、思へり、

第五

此猫を見よ、○此猫ハ、褥床の上よ、坐をる故よ、善き猫よあらゞ、○汝も、此猫を、追ひ退くることを、得べきや、○猫も、吾の手を、出をを見れバ、嚙みつくべし、○此猫は、他所よ、行くや、又、此室内ふ、留まるや、○猫は、此室内よ、留まれども、褥床の上よ、居らしむべからゞ、○汝は、此猫の、鼠を捕ふるを、見さりや、○



吾た見たり、然れども、それハ、大なる鼠よは、あらざりし、

第六

汝は、小舟よ乘れる人を見たりや、○彼は、其舟を、如何して、行かしむるや、○彼は、手に櫂を持ちて、これを漕げり、○此小舟の、浮べる所ハ、湖水なり、○此湖水よは、數多の魚類あれども、皆、甚ぐ深き處に、游泳せる故、其魚を見ること能ハず、

第七

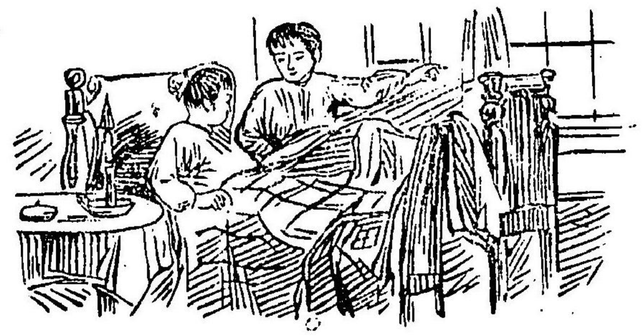
汝ハ、數名の童子の、遊ふを見たりや、○彼等ハ、何を以て、遊べるや、○彼等ハ、球を以て、遊へり、○彼等の、球を蹴るを、見

たりや、○吾は、球を蹴るを、見ざれども、棒を以て、球を擊つを見たり、○此は、堅き球なりや、○否、軟き球なる故、體に當ることあるとも、傷つくることあり、○此は、童子に、善き遊なれとも、終日、これを爲すべからず、

殊に、熱き日には、成るたけ速く、これを止むべし、若し、久しく、これを爲せば、暑きの爲めに、身體を害ふことあればなり、

第八

大陽昇りたり、これ我等の、起き出づべき時なり、○大陽の昇りたる後も、褥床に在るべからず、○我等は、今、大陽を見



得れども、其昇るを見ざりし、○汝は、大陽の、甚だ赤きを見たりや、○大陽の、甚だ赤きときは、雨ふるべきや、又旱をべきや、○此の如きときハ、大概旱をると、知るべし、

第九

これは、何の樹なりや、○これは、薔薇の樹なり、○汝は、其薔薇を、見たりや、○此樹ハ、數多の、紅き薔薇著けり、○此薔薇ハ、撮ミ取りて、可なりや、○否、今、これを撮ミ取るべからず、○二三日の間、樹に着け置くとき

は、其蕾開きて、美しき、紅き花となる、○此時に、これを撮み取りて、可なり、

第十

汝は、此鳥を見たりや、○此鳥は、馴れさる故、吾の手より、餌を食ふ、○此鳥は、梨の樹より、巣を造れり、○汝は、其巣を見ることを、得るや、

○其中に、四つの卵あり、○我等は、其卵を、巣より、取り出さべからず、

第十一

此女子は、雞に、餌を與ふる爲めに、爰に來れり、○汝は、老さる牝雞の、速く食ふを、見たりや、○他の小鳥と、牝雞の如く、速く食ひ得るや、○否、牝雞の如く、

速く食ひ、又多く食ふこと能ハざ、○牝雞は、何を食ふや、○牝雞ハ、穀物を食ふなり、

第十二

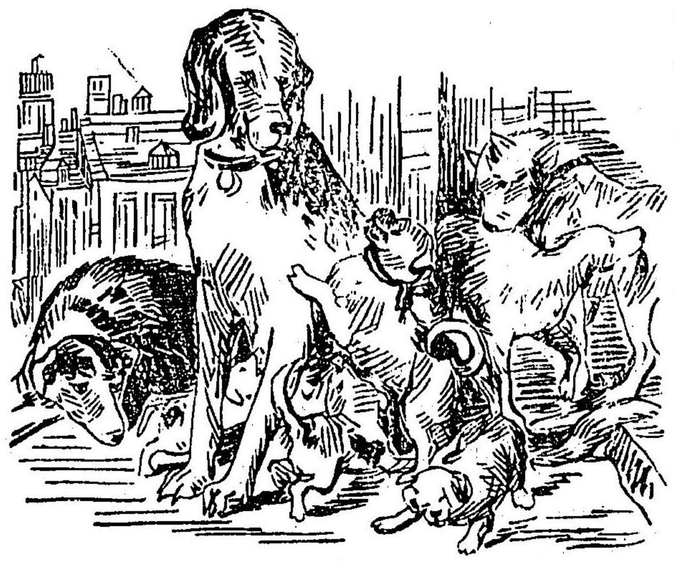
此女子は、鳥を籠に入れて、養ひ置けり、

○此鳥は、何なりや、○これハ、鶯なり、○此鳥は、馴きさりや、又、暴れて、逃げ去らんとするや、○此鳥は、今、よく馴れたれども、初めは、常に、逃げ去らんとしたり、

第十三

此鳥の、囀くときハ、如何なる聲を出ずや、○此鳥は、快よき聲を出して、囀くなり、○汝は、其聲を聞くことを、好むや、○吾ハ、其聲を聞くことを、好み、又、其姿を

見ることを好めり、○若し、籠を開くとも、鳥は、尚ほ、其中に居るや、又、飛び出だゝべきや、○馴れさる鳥なれば、一度籠より出でゝ、他に行くとも、再び、歸り來るべし、然るに、暴き鳥なれば、直きに、遠く飛ひ去りて、復歸り來ることなし、



第十四

爰に、大なる犬と、多くの小き犬とあり、○見よ、頸よ環を嵌めさる、大なる犬は、其顔、甚だ柔和なり、○此犬ハ、親切にして、小犬を嚙むことなき故、小犬は、皆、こ

れと戯れ遊ぶふり、童子よも、亦親切にして、善きものと、狡猾にして、惡しきものとあり、○吾ハ、惡しき童子等を、好まざる故成るたけ、彼等を遠ざけんとし、○假令、惡しき童子とても、之を憎み傷つくることなく、唯彼等と共に、遊バざるべし、

第十五

此童子ハ、此女兒よ、親切なりや、○然り、此童子も、親切なるゆゑ、女兒の、跌き倒れざる様に、其手を執りて、導けり、○彼等は、路に迷ふへきや、○否、童子は、路を知る故、共に、迷ハざるべし、○彼等は、森の中に、在ることを、恐るゝや、○否、恐れざる

なり、○此女兒は、童子を信じ、又童子は、よく路を知りて、女兒を導く故、彼等ハ、家に居る如く、安全なるべし、○彼等は、家より、歸らんと思へバ、直きに、歸ることを得るなり、

第十六

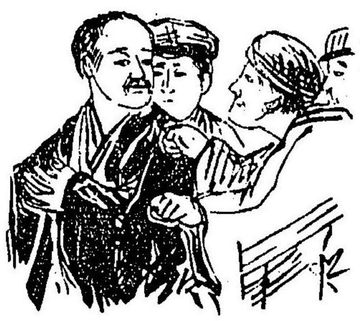
汝は、手より杖を持ちたる、老人を見さりや、○彼老人ハ、何ゆゑより、杖を用ふるや、

○杖より倚れバ、歩み易き故なり、○彼ハ、路傍の岩の上より、腰を掛けて、杖の上に、手を休めさり、○彼の顔色と、白き髪と、其腰の屈こたるとは、年老たる徴なり、○汝は、歩む爲めより、杖を要そるや、○否、我ハ、稱きゆゑ、これを要せざるなり、○彼老人ハ、何故より、其

處に、腰を掛くるや、○憩ハんが、爲めなり、○彼も、起つことを得、又、歩むことを得るや、○然り、彼は、起ちて歩むことを得れども、速く行くこと能ハず、

第十七

汝、此二人の、持ちたるものは、何ぞ用ひるかを、知るや、○汝は、其名を知れりや、○それハ、喇叭なりや、○これハ、喇叭の種類よりして、これを吹けバ、遠く隔りたる處にても、聞くことを得べき、大なる音響を發する道具なり、



爰に、又、四人あり、○汝は、此人等を老人ぞと思ふや、○此人等は、前の圖の、杖を持ちたる、老人の

如く、年老たりや、○此四人の中、帽を冠りたる人の、兩手を見よ、○汝は、彼を善き人なりと、思ふや、○否、吾ハ、惡き人ありと、思ふなり、

第十八

此人ハ、長き白髮を、戴けるゆ由りて、老人ならるべし、○其顏の、柔和なるを見よ、○吾は、此の如き、顏を好めり、○此人は、

又、必ず、善き人にして、決して、虛言をすることなかるべし、○汝は、彼の膝の上ふ、

在るものを、書物なりと、思ふや、○否、それハ、卷物なり、○汝ハ、彼ハ、何を見ると、思ふや、○卷物を見ると思ふ、○汝は、卷物の外ゆ、何を見るや、○吾は、硯と筆とを、見る、○彼ハ、筆を

持ち、巻物よ、字を書きて後、書物を讀むが如くふ、これを讀むことを、得るなり、○善き老人は、我等ゞ總て問ふ所の事を教ふるや、○彼は、童子を好めりや、○○然り、彼ハ、善き童子を好みて、能く、これふ教ふれども、惡しき童子を、好まざるなり、

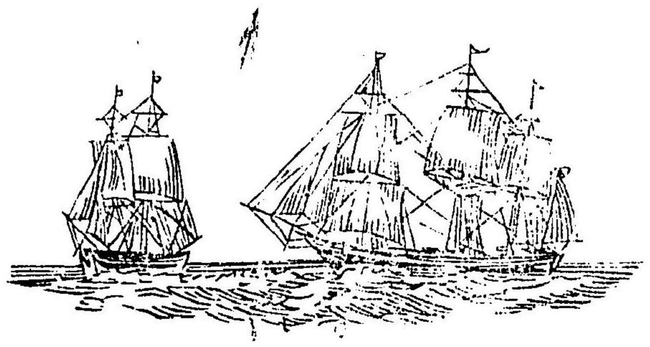
第十九

汝ハ、此小女を見たりや、○彼は、何故ふ、兩手を伸して、上げたるや、○彼ハ、籠に入れさる鳥を、貰ひ、されども、善く心を用ひて、これを養ハざる故、其鳥は、籠の開くとき、直きに、逃げ出して、森の中よ、飛び去れり、○此時、兩手を伸して、上ぐるとき、其鳥を、捕ふ

ること、能たゞ、○吾は、其鳥の、逃げさるを喜べり、元來鳥も、自由を好むものにして、籠の中ゑ、入れ置くべき道理、なければなり、○鳥は、大抵、樹木の中ゑ、在ることを好ゑ、其處ゑ、巣を造りて、其雛を、孵すものなり、

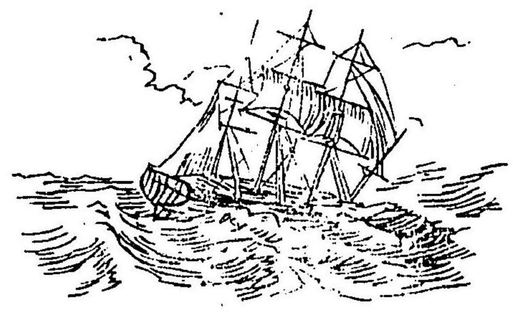
第二十

爰に、二艘の船あり、○其一つゑは、二本の檣ありて、一つゑは、三本の檣あり、○汝も、檣と、其頂上に、飜る旗を、見さりや、○汝は、此二艘の中、何れゑ、乘りて、海上を、航ることを、好めるや、○我ハ、風の吹き、浪の高く、起つときにハ、船ゑ、乘りて、海上ゑ、浮ふことを、好まゞゞして、陸に、在る



ことを好めり、

見よ、又爰よ、暴風の時、海上よ浮べる船あり、○船中の人は、甚ど難儀なるべし、○元來犬船も、數日、又は、數週間、陸を見ることと能はざるほど、遠く隔りたる海上を、航るものなり、



小學讀本卷之二 終

明治十五年五月廿九日版權免許
同　年九月出版

小學讀本卷二

定價拾貳錢

纂譯人　東京府士族　宇田川準一
東京西小川町二丁目七番地

出版　文學社
東京馬喰町二丁目一番地